



神奈川県東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

DISTRICT 2590/CHARTERED MAY 29-1976/WEEKLY BULLETIN

2013-2014年度 R I 会長 ロン D. バートン

●クラブテーマ「心を見つめよう」●



第2590地区 ガバナー
市川 緋佐磨

- 会 長 伊 東 英 紀
- 会長エレクト 山 田 正 憲
- 副 会 長 江 森 国 一
- 副 会 長 横 山 範 夫
- 幹 事 山 本 芳 弘
- 副 幹 事 植 田 清 司
- 会 計 朝 日 達 夫
- 副 会 計 須 永 久 一
- S A A 矢 野 修 二
- 副 S A A 小 山 市 康
- 副 S A A 石 川 正 三
- クラブ会報 佐 藤 勝 彦



写真提供 小池将夫会員

事務局 ホテルキャメロットジャパン内 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
TEL : 045-314-3900 FAX : 045-314-3555

例会日 毎週金曜日 0 : 30 ~ 1 : 30 PM (第5 金曜日 6 : 00 PM)

例会場 ホテルキャメロットジャパン 創立記念日 昭和 51 年 5 月 29 日

URL <http://www.kanagawahigashi.com/>

E-mail kerc@beach.ocn.ne.jp

2013-2014年度 第26週報 No. 1820 2014年(平成26年) 1月17日 第1820回例会記録 1月24日発行

司 会 植田 清司 副幹事

点 鐘 伊東 英紀 会長

斉 唱 「我等の生業」

四つのテスト 伊澤 政宏 職業奉仕委員長
(第1例会のみ)

ゲスト紹介 東郷 育子 様 (ゲストスピーカー)

会長報告 伊東 英紀 会長

・地区より2014-15年度 国際ロータリー(R I)テーマ決定のお知らせが来ております。

2014-15年度テーマ 「ロータリーに輝きを」
英語 「Light Up Rotary」

幹事報告 山本 芳弘 幹事

- ・本日、例会終了後に1月度定例理事会を開催致します。
- ・R I より2013年版手続要覧の購入申し込みが来ております。申込み書を回覧致しますので、購入を希望される方は氏名を明記願います。なお、価格につきましては1冊800円です。
- ・国際大会への登録数ご報告依頼が地区より来ております。参加を予定されている方は事務局にご連絡をお願いします。また日本人親善朝食会の申込みも事務局にて受付けております。
- ・近日の例会スケジュールにつきまして、ご連絡申し上げます。
 - 1月24日(金) 通常例会
 - 1月27日(月) 神奈川R. C・神奈川東R. C合同賀詞交歓会
 - 1月31日(金) 27日合同賀詞交歓会に例会移動の為、休み



本日〈1月24日〉のプログラム

- ◆ 斉 唱 「それでこそロータリー」
- ◆ 献 立 幕の内弁当
- ◆ 卓 話 「ロータリー-米山記念奨学事業の価値と意味」
地区米山奨学金増進委員会 委員長 高橋 敏昭 様
(紹介者 吉田 隆男 会員)

<< 本日のBGM 「パーシー・フェイス・オーケストラ/名曲集」 >>

出席報告

長井 章 出席委員長

会員総数	54名	(36+18)名	
出席会員数	42名	(28+14)名	
出席率	85.71%		
ゲスト	1名	ビジター	0名
前回補正後	95.56%	前々回補正後	92.00%

スマイルボックス

石川 正三 副SAA

白鳥厚夫君 東郷育子様、神奈川県R.Cへようこそ。本日は卓話を楽しみにしております。

飯田泰之君 先週の第2テーブルミーティングに参加の皆様、ご苦勞様でした。

矢野修二君 第2テーブルミーティング出席の皆様、ご苦勞様でした。

赤堀和人君 昨夜の“キム・ジョンナムと行く夜の関内・横浜ツアー”に参加の方々、お疲れ様でした。やっぱり修業をして来た方たちは違いますね。

山本 登君 多忙にて休みがち。ご容赦下さい。

茂木知子さん ~サンキュー~中野先生、おめでとうございます。誰も気に掛けませんが、私もさんきゅうを取りたいと思っています。この話を岩澤会員にお話したら協力を申し出て下さいました。私がさんきゅうに入ったら岩澤さんの子です。

1月17日	6件	9,000円
本年度累計		1,168,738円

卓話**「東アジア国際情勢を俯瞰する」**

卓話者 国際政治学者 東郷 育子 様
(紹介者 白鳥 厚夫 会員)



東アジアをめぐる国際情勢を語る上で不安定要因という面から、北朝鮮をめぐる朝鮮半島情勢、中国をめぐる覇権行動と経済大国としての行方、歴史認識問題から派生する東アジアの国際関係を解説します。

北朝鮮は社会主義国にも拘らず、異例の三代に亘る権力継承を行いました。初代の金日成から金正日への継承時に比べると、今回の金正恩への継承は若いということ、準備期間が短かったこともあり、基本的に軍を除いては考えられない。国家のトップは軍のトップであり、軍に優先的に力を注ぎ、重視する、いわゆる先軍政治の継承でもあった。先軍政治を始めた金正日時代に軍は必要以上に肥大化し、利権構造を握った。今回の叔父であり、No. 2であった張成沢粛清はなぜ起こったか。張成沢がこの軍の利権を奪ったことへの軍の報復というのが本質的なところであろう。現在、北朝鮮内部では過酷な粛清が行われ、内部引き締めが図られ、恐怖政治による権力固めが行われている。表面上、国民は従っているが、本音のところは金正恩に対する忠誠心は危うい。金正恩体制は決して盤石ではない。そのために国外で危機をつくることで体制結束を図るのが北朝鮮の常套手段である。今後も核実験、ミサイル発射をやってくるだろう。金正日の行動はある程度読めたが、金正恩は全く読めない。韓国では2、3月に軍事的挑発を含めて警戒は最高レベルを維持している。鍵を握るのは中国の動きとなる。今の北朝鮮は中国からの援助なしには存続できない。その中国がどこまで金正恩体制を支えるかにかかっている。

世界第2位の経済大国になった中国の行動は対外的に膨張戦略である。中国は経済成長維持のためならば、アフリカをはじめ、世界での石油や資源争奪になりふり構わない。経済成長こそ、今の中国にとって共産党政権の正統化維持のための手段であるからである。空母配備など海軍力の増強の本音は、アメリカのアジア太平洋での覇権を弱め、中国の海洋覇権を最大限拡大していくことにある。その動機の一つに海洋資源の確保がある。南シナ海の領有権問題にしても、尖閣諸島問題も含めて東シナ海での領有権問題も資源確保の意味を持つ。そのため、中国は領海法の制定、防空識別圏の設定、海洋監視船の派遣など、既成事実化することで実質的な領土拡大を狙っている。もともと失地回復主義なので失ったものを取り返すのは当たり前という発想である。その中国が抱えている危うさの1つが経済発展はどこまで続くのかということである。中国は経済大国でありながら、自ら発展途上国であり、発展する権利があるのだという主張である。鄧小平が始めた改革開放政策は確かに中国を経済発展に導いたが著しい格差社会をもたらした。共産党幹部、地方の役人が利権構造を持ち、莫大な富を握り、大半の国民は貧しいままか、さらに貧しくなった。暴動や労働争議は日常茶飯でこの不満がいつ民主化運動に発展しかねない状態を共産党政権は警戒している。加えて、経済発展のために犠牲になった環境はすでに最悪の状況で、どこまで本気で取り組んでいくのか如何によっては経済発展も意味がないものになりかねない危険水域にある。

それでは東アジアはどうなっていくのか。平和は維持できるのか。それには二国間関係が良好でその積み重ねが不可欠となる。しかし、今は日韓関係、日中関係は最悪である。その大きな原因が歴史認識問題である。そもそも韓国も中国も歴史のとらえ方が日本と本質的に違う。韓国も中国も日本は歴史認識を改めるべきであると文句を言う。この問題を解決させるということは日本が韓国や中国

の歴史認識を受け入れるということである。それはありえない、受け入れがたいことである。しかし、靖国参拝問題はコントロールできるものである。安倍首相が強行した靖国参拝問題は「不戦の誓い」「近隣の諸外国の感情を傷つける気は毛頭ない」と言ったところで国際社会では通用しない。今回はやり過ぎ感があつた中国と韓国の対日外交の失点回復の機会を与えすぎなかった。のみならず、この問題を理由にロシア、ヨーロッパ、アメリカも巻き込んで日本への批判を巧みに利用し、日本包囲網を築こうとしている。日米同盟にひたすら縋ってきた日本にとって、アメリカだけに向いていればいいという時代はもう過ぎた。特定秘密保護法、集团的自衛権、憲法改正と、安倍政権は次々と右傾化に突き進んでいる。これが東アジアでの余計な摩擦を生むものになるのであればいかになものか、今一度、国民を含めて議論をすべきである。

ロータリーニュース

2014-15年度 テーマ「ロータリーに輝きを」

「ただ座って暗闇を呪うよりも、ロウソクを灯したほうがいい」

ロータリー設立の約 2,400 年前を生きた中国の思想家、孔子の言葉を引用したゲイリー C. K. ホアン国際ロータリー会長エレクトは、孔子を「世界で最初のロータリアン」と述べました。孔子の教えに心を動かされたホアン会長エレクトは、2014-15 年度のテーマを「ロータリーに輝きを」(Light Up Rotary) とすることを発表しました。

「世界には問題が山積みとなっており、大勢の人が助けを必要としています。しかし、“自分にできることはない”と言って、何もせずにただ座っている人が大勢います。これでは、何もかも暗闇のままです」とホアン氏。世界537地区からサンディエゴ（米国）に集まったガバナー夫妻に向けて、次のように語りました。「ロータリーの考え方は、孔子と同じです。ロウソクを灯すのがロータリーです。私が一本、あなたが一本。こうして、120万人の会員全員がロウソクを灯します。力を合わせれば、世界を光で輝かせることができますのです」

テーマを明かしたホアン会長エレクトは、次年度にそれぞれの地域社会で「ロータリーデー」を実施したり、地元ロータリーアクトやインターアクトのメンバーと一緒に奉仕プロジェクトを実施することによって、クラブが「ロータリーに輝き」をもたらすよう呼びかけました。

「ロータリーをどう輝かせるか、ご自分のロウソクをどう灯すかは、皆さん次第です。自分が何を得意とするかは、ご自身がよくご存じのはずです。地元地域社会が何を必要としているか、どう支援できるかは、皆さんご自身のほうがお分かりになるでしょう」

会員増強の目標についても触れた会長エレクトは、女性会員や若い会員の必要性や、世界の会員数を130万人に増やすという自身の目標について語りました。配偶者や家族、友人をロータリーに誘うよう呼びかけたホアン氏は、「活気あるクラブを築くために、私たちが率先する必要があります。そのためには、まず新会員を迎えられることから始めようではありませんか」と述べました。

ポリオ撲滅活動の現状については、今の勢いを保てば、2018年までにポリオを完全に撲滅することが可能、と述べました。「ポリオを撲滅すれば（必ずや撲滅は達成できます）、ロータリーが偉業を成し遂げる力を備えた組織であることが実証されるでしょう。また、ポリオ撲滅後に取り組む次なるチャレンジのための土台が整えられるでしょう。何より重要なのは、永遠に続くプレゼントを世界に贈れるということです」

ポリオ撲滅の闘いを続け、地元地域の人々の模範となり、会員基盤を成長させることによって、ロータリーを今までよりも輝かせることができると、ホアン会長エレクトは願っています。

「『ロータリーに輝きを』、これが次年度のテーマですが、これにはテーマ以上の意味があります。私たちがロータリーでどう生き、どう考え、感じ、活動するかが、この言葉に込められています。すべてのクラブ、地区、そして活動するすべての国で、日々、人々のために何ができるか。それを表しているのです」



ロータリーニュース

「私は一人の女の子」マララさんの思い

美しく汚れなき理想郷、タリバーンの支配下へ

ここは、パキスタン北部、カシミール地方とカイバル峠の間にあるスワート渓谷。かつては、行政長官ミアングル・アブドゥル・ハック・ジェハンゼブの管理下に置かれ、豊かさや平和に満ちた生活が営まれていました。ジェハンゼブは近代化を進め、男女両方に開かれた学校を建設、自動車では行くことができない遠隔地にも行政の手を届けました。

「雲を突き抜けるように山がそびえる、美しく汚れなき理想郷。人びとは、この地をシャングリラ（伝説の理想郷）と呼びました」

そう振り返るのは、ジェハンゼブの孫娘であるゼブ・ジラニさんです。地元の人びとから、今でも「プリンセス・ゼブ」と呼ばれます。

小さい頃に緑色に輝く石で遊んだ思い出を偲ぶジラニさん、かつては家族が所有する鉱山でエメラルドが採れたそうです。

しかし、1969年、スワート地方の主権はパキスタン政府に渡り、同地方は下降線をたどることになります。さらに、2008年にはタリバーン政権が台頭し、その後の2年間、人びとは厳格なイスラム法によって支配される生活を強いられました。政治的に敵とみなされた者は拘束され、斬首刑や鞭打ちの刑に処された人もいました。公開処刑が行われ、女性への暴力が横行し、学校も破壊されました。

ジラニさんは1979年、生活の場を米国へと移しました。その後も年に1度帰国していますが、生まれ故郷が侵略される様を目にするのはとても辛いと話します。エメラルド鉱山から得た財産もなくなってしまいました。しかし彼女は、一から集めたお金で学校を建設し、スワートからの難民のためにシェルターと薬品を提供、さらに、スワート地方に初のロータリークラブを創設しました。

教育への思い

クラブへの入会を呼びかけた最初の人たちの中に、教育者で活動家でもあるジアウディン・ユスフザイさんという人がいました。彼の娘は、今や世界の人となった、マララ・ユスフザイさんです。

15歳のとき、既に優等生として一目置かれる存在だったマララさん。青い制服を着て、科学、数学、イスラム教育、英語、ウルドゥ語の授業を受ける一方で、パシュトゥ語の詩から冒険物語にいたる幅広い書物を読んでいた。ウルドゥ語で書かれた彼女のブログには、パキスタン軍とタリバーンの争いや、上空で大きな音をあげる武装ヘリコプターなど、タリバーンの影響下に置かれた生活に関する記述がありました。また、不足する書物、自分の夢、お気に入りのピンクの服、そして教育を受けられない日がある可能性などについて、彼女の思いが刻々と綴られていました。ある日のブログには、次のようなメッセージが書かれています。

「タリバーンが、女子の学校教育を禁止する法令を出しました」「私は教育を受けます。私たちは全世界をお願いします。私たちの学校を、スワートの地を守ってください」

ブログでは、グル・マカイというパキスタン民謡の英雄の名を使用し、本名を名乗ることはできませんでした。

マララさんの父親も、スワートの伝統を守ることに力を入れていました。パキスタン政府が同地域での統制を部分的に取り戻した後2010年、彼が所属する ミンゴラ・スワート・ロータリークラブ主催の音楽イベントの準備に加わっていました。タリバーンの台頭後では初めての音楽行事だったため、ロータリアンは皆、イベントの開催を強く誇りに感じていました。「まだタリバーンの影響下にあったので、開催には大きな勇気が必要とされた」と、彼は振り返ります。「脅しや暗殺が頻繁に起きていたため、何が起こるか分かりませんでした。でも、結果的に素晴らしいイベントにすることができました」

マララさんを襲った悲劇

2012年10月のある日、ジアウディン・ユスフザイさんは、総勢300名以上の校長・教師が集まった全人教育の推進キャンペーンに参加していました。ロータリー仲間のアーマドさんに続いて演壇に上がったとき、一本の電話が入りました。

「私はアーマドさんに電話を取ってもらいました。すると彼が私

の耳元で、娘が通う学校のバスが襲撃されたことを告げました。目の前が真っ暗になりました。マララが標的とされたにちがいないと感じたからです。場内には私を呼ぶアナウンスが流れ、額には汗が流れていました。6分間の演説を終えるとアーマドさんがやってきて、病院に直行するよう私に言ったのです」

被害者は、マララさんでした。スクールバスで帰宅中、銃を持った男が車中に押し入り、どの生徒がマララさんか教えないと全員を殺すと脅したのです。恐怖に駆られた生徒たちは、マララさんの方を見つめるほかありませんでした。男は銃口をマララさんの頭に向け、至近距離から発砲しました。事件から6日後、戦争被害者の治療を専門とする英国パーミンガムの病院に搬送されたマララさんは、そこで昏睡状態から目覚めました。「どこの国に私はいるのですか？」とマララさんは尋ねたそうです。謙虚に振る舞いつつ、彼女は毅然として述べました。「タリバーンは私を殺そうと思ったことでしょう。でも、そうはさせません」。父親には「安心して」と声をかけ、ジラニさんには「人びとを助けようとする私のことを、きっと神様が守ってくれる」と述べました。

希望を新たに

2013年3月、マララさんは、英国で2番目のパキスタン人口を抱えるパーミンガム市内の学校に通学し始めました。グリーンセーターに身を包み、ピンクのカバンを背負ったマララさんは、頭の中に埋め込まれたチタン製プレートと、補聴器材が左耳に付いていることを除けば、普通の女の子と何ら変わりはありません。

「私は一人の女の子に過ぎない」と彼女は言います。英国での勉学を開始したマララさんは、最初に、すべての子どもの教育を受ける権利を訴える署名活動を行いました。

父親は、ゴードン・ブラウン国連世界教育特使（元英国首相）の諮問役となりました。マララさんは、世界中の人が知る存在となりましたが、心の中には常に、故郷に再び繁栄の日が訪れることへの希望が宿っています。

ジラニさんは、スワート地方への物資提供を通じて、地道な支援活動を続けています。

「マララさんに起こったことは本当に恐ろしいことです。しかし、これによって世界が彼女に耳を傾けることになりました。きっと、彼女の目標を支える大きな力となるでしょう。いつの日か故郷へと戻り、私たちの活動が生み出した変化を知ってもらえたらいいなと感じています」

故郷に変化をもたらすこと、これはマララさんにとっても同じ願いです。彼女の父親は、今回の事件を振り返りながら、いつか故郷に帰ることを望んでいます。

「私たちの故郷、スワート溪谷に帰る日のことを夢見ています。そしたら、マララにもロータリーに参加してもらいます

「ザ・ロータリアン」誌

次回《1月27日》の予定

神奈川R.C・神奈川東R.C合同賀詞交歓会